

114
A 156

第百七十九号

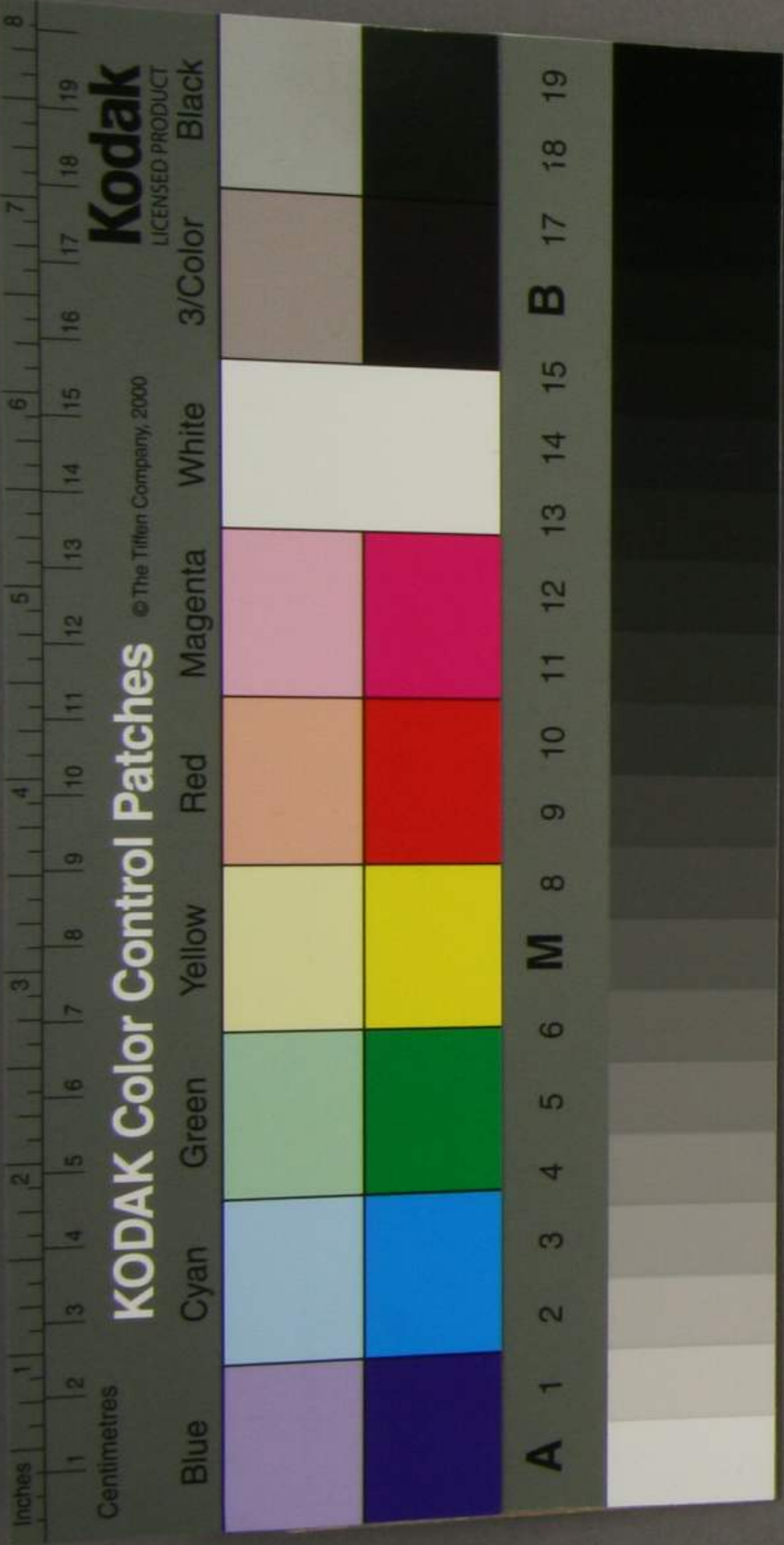
六葉



六月二十二日「シヤパンガゼット」抄譯

大正十一年四月
限正
侯爵郵寄贈

事セシ者ト虽モ其例ヲ知ル者ナシ然レモ其始
 メハ人々ノ知レル如ク明ラカカリ而シテ支那ハ
 常ニ談判施行共ニ緩鈍ニシテ此度日本ノホル
 モサ征討ヲ決セシハ嘗テ知リナカラ此事件ニ
 付キテ何事ヲモ云フイナク現ニ日本兵ホルモ
 ナ島ニ上陸セルニ至リ種々ノ事ヲ云ヒ日本ノ
 都督ヨリ福建ノ鎮臺ニ書簡ヲ送レル其返翰ニ
 大モサ全島ハ支那領ナルイラ迷ヘタリ又使



ヲ道シテ其理ヲ述ヘ且ツ支那ヨリ日本ニカ
モサ兎人ノ處分ヲ帰セル約アラハ必ス其書
ラン然ラハ其寫ヲ得ント云ヒ送レリ
前條ニ載セタル支那使節ノ來タレル日附ナキ
故ニ何日ナリシヤ慥カニ知リ難シト雖モ「ジャバ
ン、メー」ルノ説ニ據レハ此「メー」ルノ出版前ニハ
未タ支那ニテ公布セサリシヤレ可シ且我輩察
スルニ支那ヨリ此書翰ヲ送リシハ日本人ノ目
「メー」ル「グー」タン及ヒ「コー」ロツ「族」ヲ懲セシ前ニ
ハアラザラシナリ又最近ニ公布アリシ電信ノ

説ニ隨ヘハ七月三日ニ「グー」タン「族」ヲ撃テ一時
ノ怒ヲ散セリ且ツ此勝利ニ依テ日本帝ノ全權
大使北京ニ於テ手強ク談判アラントテ欲セリ
然レモ鎮臺ヨリ送レル書翰中ニ琉球ハ我屬國
ナルヲ以テ其船ホルモサニ漂着セシキ漂着人
其土人ニ殺サレタルヲ其地ノ支那官員ニ命シ
嚴密ニ處置セシメタリ故ニ此等ノ「イ」ハ日本ノ
心勞スル所ニアラスト云ヘリ是レ日本ニテ一
難事起レルナリ支那ハ實ニ琉球モホルモサニ
於ケル如ク支那屬國ト云フト見ヘタリ

最モ琉球ハ日本支那兩國ニ貢ヲ納ル然レ琉
球人ハ自ラ日本ノ屬國タルヲ信シ且新タニ
制ヲ立テ日本ニテ琉球ヲ藩屬國トセリ若シ支
那ニテ之ヲ屬國ト称セハ一議論ノ基ヲ置ケル
ナリ

我輩思フニ支那ヨリ日本ニ送レル返翰ハ倨傲
不遜ニメ日本ニ兵ヲ退ケン^ル命令シ若シ此
命令ニ違ヒナハ和親ヲ破ルニ至ラント脅カシ
云ヘリ我輩思フニ日本ニテ之レニ從フ^ル決シテアルマシ
此返書ヲ送レル原因ヲ考フルニ始メ日本

兵アモイニ會合マシ片ト雖モ鎮臺日本兵ノホ
ルモサニ至ル^ル支ヘス今ニ至リテ外國人ノ説
ヲ聞キ期ニ後レテ使節ヲ送り己レノ名譽ヲ得
ント欲セシナリ又米國領事官ノ合衆國ノ人民
ニ布告ヲ出セシモ期ニ後レ^ル然レ^レ是ハ合
衆國ヲシテ日本人ノ支那領ニ攻入スル^ルニ與
ミセザル^ルヲ示セルナリ
夫レハ扱テ置キ茲ニ一大事件アリ是レ英軍艦
ト合衆國ノアドミラルベルト共ニ共同光人
何如ニ處置セシヤノ^ルナリ

一千八百六十七年ニ米國船此島ニ漂着セシ片
乗込ノ中支那人一名ヲ除キ其余ノ者ハ都テ衆
サレタリ此時アモイ在留ノ米國領事官ビ子ラ
ル、レゼンドルホルモサニ赴キ支那官員ニ談判
ニ及ビシ片支那官員ホルモサ生蕃地ハ支那領
ニアラスト雖モ此兎人ヲ誅セニテヲ約セリ此
記トイケイビヨールナル新聞ニ委ク記セリ而ソ
千八百六十七年ニナス所ハ今日日本人ノナマ所
ト少シク異ナリ
トイケイビヨールナルニ日本人五月六日ニ上陸セシ

ヨリ同月二十七日迄ノ記ヲ載ヤ且云ク我輩今支
那人ノ南ホルモサヲ已レノ地ト称スルノ理ナ
キトノ證ヲ示サン
若シ此證ヲ示シテハ各事ノ議論止ム可キハ勿
論ナレモ支那人ハ今迄遠隔セル地ヲ已レノ領
ト称スル夢ノ如キ考ヘテナセルト是ヘタリ
支那政府ノ書ニ云ク四海中ノ支那帝ニ使ヲ送
貢物ヲ納ル國ハ朝鮮、琉球、暹、シヤム、ソロ、和蘭、ヒユ
ルマ又ニ西洋ノ各國ナリ其他ハ只ニ貿易交通
スル而已ナリ而ノ西洋各國ト云フハホルトガ

ルイタガエニゲラントニシテ此中ニホルモ
サハナシ之レ蓋シホルモサハ支那領ニノ別ニ
ホスニ又ハスト思ヘルニ由ル可シ然レ此南
部ノ土人ハ支那ニ從属セス只ニ臺灣府ニ在ル
所ノ支那官員ニ税ヲ納ル而已琉球ノ如キモ亦
同様ナリ且ツ和蘭英國モ亦然リ
何レニモテモ今日本人此地ヲ去ルノ理ナシ而
ノホルモサハ支那管轄外ナルヲ以テ日本ニテ之
ヲ懲スハ不正ナラサル一ヲ證ス可シ若シ日本
ノ為ス所不正タラハ支那ノ誤レルヨリ日本ノ不

正ニ導キタルナリホルモサハ支那管外タルト
云ヘルハ今新ラタニ云ヘルニアラズ副島氏支
那ニ至リシハ支那帝或ハ支那政府ニテ副島ニ
對シテ云ヒシナリ且ツ日本ニテ時日ノ遅速ハ
アルトモ必ずホルモサヲ征討ス可キ莫ハ副島
氏帰國アルヤ直ニ此風説アレハ知ラサルナ
カル可シ且佐賀騷動ノ此征討ヲ速カニセシ
疑ヒナシト虫モ征討論ノ決セシハ佐賀騷動前
ノナリ
今度ノホルモサ征討ハ原来ノ目的ヨリ離レテ

大ニ益アル可シホルモサ島ニ漂着スル船アル
トモ此後ハ「ブー」族ノナセシ如キ兇暴ノ所
為ラ防キ且士族兵卒ノ心ヲ得彼ノ輩ヲシテ再
ニ報國盡忠ノ人タラシム可シ而メ之レヨリ又
朝鮮征討論盛ニナル可シト虫モ大臣休息スル
ハ時アル可シ而メ斯ノ如キ企ノ諸入費ノ計算
ハナシ易ク遂ニ樂ヲナスニハ蠟燭ヲ用ヒザル
ヲ得スト云フ「フ」ヲ知ルニ至ル可シ且ツ其他兵
隊士官ハ兵律ハ嚴ナラサルヲ得スト云フ「フ」
知ル可シ其例ハ我輩ハ「ト」ト「ケイ」シ「ル」ナル

ヲ讀ミテ識リ政府モ報告ニテ識リタル石門ノ
戦争ナリ日本兵性急ニシテ好機會ヲ失ヒ石門
ノ戦ニ勝利ヲ得レド原來謀リシ処ハ「ブー」ニ
「フ」多ク殺サントニハ「ア」ラス只ニ走ラシメント
セシナリ故ニ海軍參軍一度兵ヲ引揚ケントマ
シガ兵士勇ニ進ニテ退カザリシ之レヨリ前ノ
戦ニ亦然リ命ノ聞カス氣儘ニ陣外ニ出ルヨリ
戦ヒ起リタリ而メ大將タル一人ノ命ニ從ハス
各説ヲ述ヘ兵士ハ勝利ヲ得ル「フ」悦ヘ兵將校
ハ被レ等ノ為メニ謀ヲ誤ラルハ「フ」憂ルナル

可也

當時海陸ノ將ハ兵律ヲ嚴ニセシテ欲スル疑

ヒナシ故ニ此戦ニ無益ノ一ニアラス

我輩ハ此戦ヲ日本ニテ為ス所ノ終リノ戦タラ

ニシテ希フ若シ朝鮮征討アラハ兵律ヲ嚴ニセ

ニシテ深ク日本ノ為メニ望ム

園
鑑
記

